

続 高校野球

校長 大島 進

夏になると私が以前住んでいた韓国の自宅近所の公園にあった、おそらくステンレス製と思われる長い滑り台を思い出します。20年以上も昔のことで、今はもう取り壊されているのかもしれませんが、夏の太陽の光を存分に浴びた銀色に輝く滑り台はやけどするほど熱くて昼間は遊ぶ子どもを見かけませんでした。安全第一が何よりも重視される今の時代には、公園の管理者にクレームが入ってしまうような遊具なのかもしれませんが、夏の日差しと寂しさが混じり合うあの滑り台は夏の一幕として記憶に残っています。

あのときの公園のように、普段、多くの人で賑わう場所が、人のいない空間に変わると、他の場所以上に寂しげに感じてしまいます。夏休みの生徒のいない学校も寂しげな空間の一つです。夏休みの午後、校長室でPCに向かい蝉の声に耳を傾けると、年齢のせいか、ノスタルジーを感じます。年齢を重ねることは切なくも素敵ことです。

さて、今年も昨年に引き続いて高校野球の開会式の選手宣誓を取り上げさせていただきます。埼玉県大会は今回108回目の開催ということで抽選番号108番を引き当てた細田学園高校の選手が宣誓をしました。宣誓の内容は、「108は公式球の縫い目の数。私たちを支えてくれた家族への思い、切磋琢磨してきた仲間との絆、全ての思いを、白球とその縫い目に込めて、気合と根性でこの夏を熱く戦い抜く」(スポーツ報知 7月8日より)という言葉でした。108回目の大会を縫い目の数と合わせながら宣誓するのはよく考えたものだと感じさせられました。そして、家族への感謝と仲間との絆を野球という競技を通じて心に刻むことができたことは素晴らしいことです。



何かに一生懸命に打ち込むことは、その人の努力が大きいところですが、周りの人々、特に家族の支えがなくてはできないことに気づき、仲間と一緒に努力したことによって自分の力が高められたことに気づき、そして自分たちが大人になったら、同僚を助け、自分の子どもを一生懸命支えていくという良き人生のバトンが次の世代に渡されるのだと思いました。

夏休みが終わり、吹上中学校の生徒の一回り成長した姿を見るのが楽しみです。学校は、生徒の活気があってこそその空間なのだと、夏休みの校舎を見て毎年のように感じます。長い2学期、成長できる2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

(保護者へのお願い) SNSのトラブルについて

全国の中学校でSNSによるトラブルが懸念されています。

本校でも1学期終業式の後に、生徒指導担当より、スマートフォンの利用について十分気をつけるように全体で指導しました。

夏季休業中のお子さんのスマートフォンの利用状況はいかがだったでしょうか。

学校が懸念される情報を把握した場合は、必要に応じて、事実確認や該当生徒への指導、該当生徒の保護者への指導内容等の報告、そして必要に応じて全体指導や警察等関係機関との連携など、学校がすべきことを行ってまいります。

しかし、SNSのトラブルは、学校生活以外の場面で起きていることがほとんどであるため、学校が把握したときには、すでに事態が大きくなっているケースや、警察等の学校以外の機関で対応すべき内容であることも少なくありません。

ご家庭の判断でスマートフォン等をお子さんに利用させる際には、使用時の約束事を決める、見守りやご家庭での指導、そしてトラブル発生時のご対応など、よろしくお願いいたします。